

芸術科（美術） 学習指導案

府立吹田東高等学校

1. 日 時 平成〇年〇月〇日（〇）第〇時限 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分

2. 場 所 本館〇階 第〇学年〇組教室

3. 学年・組・教科（科目） 第1学年〇組（〇〇名）・〇〇

4. 単元（題材）名 「絵画表現の幅をひろげよう～ミクストメディア～」(A表現(1) 絵画、B鑑賞)
使用図書は、教科書：〇〇〇

5. 単元（題材）の目標

- ・さまざまな素材を使った制作を通して平面の造形要素である色・形・テクスチャーの美しさや面白さを発見し、主体的に学習に取り組む。(美術への関心・意欲・態度)
- ・造形要素や偶然性の作用を生かし創造的に構成した表現の構想を練る。同時に、制作の過程で感じ取ったことを起点として主題を生成する。(発想や構想の能力)
- ・発想した主題を作品にするため、造形要素や偶然性を生かした効果的な表現を追及する。(創造的な技能)
- ・他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わう。(鑑賞の能力)

6. 教材観

テーマやモチーフといった「何かを描く」から解放され、素材の可能性や偶然性を生かした表現そのものを楽しみ、表現と同時に美的発見を体験する、アウトプットとインプットを同時に行うことにより、生徒の創造性を高め、表現と鑑賞の幅を広げる。次に、〈表現・造形物〉から連想される〈イメージ・ワード〉を主題とし設定する。言語化することで自己を見つめ内省し、表現の質を高め、作品として昇華させる。また、同じ材料を使って多様な表現が生まれることにより、鑑賞学習を通して他者の作品を広く理解し、そのよさや美しさを味わうことができるようにする。

7. 生徒観

(略)

8. 指導観

自分のイメージやアイデアを作品にすることに戸惑う生徒が多い。自由度の高い素材・表現体験は、イメージを作品化する大きなヒントとなりえる。また、上手下手に関係なく表現が成立するため、絵画や抽象に苦手意識がある生徒へのアプローチにもなる。

表現体験と作品を言語化する過程は、自分と向き合い自己を見つめることにもつながる。これは青年期の発達段階の特徴とも合致し、またすべての芸術の出発点とも言える。また、鑑賞活動（発表・考察・感性・評価）により他者と表現内容を共有し、言語活動を通じてお互いに学び高め合う。

達成感が得にくい課題なので到達目標の設定や鑑賞を工夫する必要がある。

9. 単元（題材）の評価規準

a 美術への関心・意欲・態度	b 発想や構想の能力	c 創造的な技能	d 鑑賞の能力
①意欲的に新しい表現方法に挑戦し、主体的に制作に取り組むことができる。	①造形要素や偶然性を意識し、美しく創造的な構想を練ることができる。 ②制作から感じ取り、主題を発想することができる。	①素材・画材・道具の特性を活かした表現ができる。 ②主題に合った絵画作品として充実した画面を完成させている。	①自己の作品や制作過程で発見したことを言葉で説明できる。 ②他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。

10. 単元の指導と評価の計画（全8時間）

*○必要に応じて評価する（指導に生かす評価）

◎全生徒を評価する（記録に残す評価）

時	学習内容	評価の観点*				主な評価規準・評価方法
		a	b	c	d	
第1・2時	OPart1 小さな試作 ・素材・画材・道具の説明と使い方と表現に活かすポイント。 ・絵画の造形要素 ・題材説明（書画カメラ・プリント使用） ・試作4点以上制作	○		◎		【a①】素材・画材・道具について表現することや絵画の造形要素について関心を持ち主体的に学習に取り組もうとしている。（観察） 【c①】色々な素材と技法を試すため、小さな作品複数を同時進行で制作している。（作品）
第3・4時	OPart2 試作～主題の生成 ・素材や技法と共に、画面をサイズや形も試しながら制作。複数並行。 ・制作過程と作品から感じ取ったことを元にテーマや題名をつける。 ・そこから自分の主題を生成し、創造的な表現の構想を練る。 ・主題の生成段階で一度鑑賞する。		○	◎	○	【b①】制作過程と作品から感じ取ったことから主題を生成している。（ワークシート） 【c②】生成した主題に合った素材・表現・偶然性の取り込みなどを工夫して表現している。（ワークシート） 【d②】他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。（観察）
第5・6時	OPart3 大きい作品制作 ・主題を元に、大きい画面（八切～B3）で制作。トリミングを前提として大きめにする。		○	◎		【b②】生成した主題を表現する構想を練っている。（ワークシート） 【c②】生成した主題を素材・表現・偶然性の取り込みなどを工夫して表現している。（作品）
第7・8時	OPart4 仕上げ・鑑賞 ・作品を完成させ、全体で鑑賞する。			○	◎	【c②】生成した主題を素材・表現・偶然性の取り込みなどを工夫して表現している。（作品） 【d①②】自己の作品や制作過程で発見したことを言葉で説明できる。また、他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。（ワークシート）

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・素材・画材・道具の特性を理解し、それを活かして表現することに関心を持ち、主体的に制作することができる。
- ・絵画の造形要素を理解し、素材・表現・偶然性の取り込みなどを工夫して表現している。

(2) 本時の評価規準

- ・【a①】素材・画材・道具について表現することや絵画の造形要素について関心を持ち主体的に学習に取り組めたか。
- ・【c①】色々な素材と技法を試しながら、素材・表現・偶然性の取り込みなどを工夫して表現できたか。

(3) 本時の準備物

プリント、ハサミ、定規、鉛筆、ペン、ニードル、ペインティングナイフ、刷毛、筆、ローラー、カッターナイフ、紙やすり、絵具（アクリル・ポスターカラー・水彩）、ジェッソ（白、粒子大、カラー）、アクリルメディウム、墨、のり、接着剤、アルミホイル、ラップ、ビニール、新聞紙、布（麻、レース、等）、網戸（の網）、爪楊枝、割り箸、串、紐（いろいろ）、画用紙、厚紙、ダンボール、ティッシュペーパー、トイレットペーパー、キッチンペーパー、エアクッション、発砲スチロール、板端材、彫刻刀、製菓や調理器具、ドライヤーなど。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
20分 導 入	○素材・画材・道具の理解 ・題材の説明：素材を活かした抽象的な表現。 ・素材・画材・道具の説明と使い方。表現に活かすポイント。 ・絵画の造形要素（色・形・テクスチャー・構図）説明。 ・書画カメラ・プリント等	○今日の内容を全体で確認 ・素材の活かし方やバリエーションのヒントを与え、発想の幅を広げる。 ・アクリル系画材は乾燥が早いので、それを活かした制作手順。 ・絵画の造形要素を例示しながら説明。のちにトリミングすることも示唆。	
70分 展 開	○小さな試作制作 ・ハガキ程度の試作4点以上制作。出来るだけいろいろな素材・画材を使う。 ・乾き待ちの時間も考え、複数を同時進行で作成する。 ・浮かんだ言葉をメモする。	○素材・画材・偶然性を活かした試作 ・作業手順を考え、同時に複数の作品を作成させる。乾燥させるスペースも必要。 ・成功と失敗は紙一重なので、失敗を恐れず積極的に制作させる。 ・偶然にできた効果を大切にさせ、制作過程の観察・気付き・発見を制作にフィードバックしていく。 ・作品から浮かぶ言葉をメモする。	【a①】 素材・画材・道具について表現することや絵画の造形要素について関心を持ち主体的に学習に取り組もうとしている。（観察） 【c①】 色々な素材と技法を試すため、小さな作品複数を同時進行で制作していく。（作品）
10分 ま と め	○まとめ ・片付け、用具返却	○今日の内容の確認 ・絵画表現として成立することを確認する。 ・制作過程や作品から刺激されて浮かんだ言葉から主題のヒントを得る。	

「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
c ①	素材・画材・道具の特性を十分に活かし、偶然性を表現として取り込み、効果的な表現方法で追及して表現することができたか。	素材・画材・道具の特性と偶然性を活かして表現することができたか。	同じ素材・画材を使った表現の具体例を提示し、制作過程で意識すべきポイントを理解させる。



